



# 少年センターだより



令和5年1・2月号(第422号)

毎月1日「少年の日」 ☆育て少年心豊かにたくましく! 第3日曜日「家庭の日」 ☆咲かせよう明るい会話, 家族の輪

## 令和4年度 ココロねっこ運動研修会

今年、ココロねっこパレードからココロねっこ研修会に形態を変えて行いました。前健全協会長の田中まり子さんをお招きして講演をしていただきました。田中まり子さんは、旭が丘小校区の健全協時代、地区映写会やキラキラフェスティバルなどといったイベントを企画し、子どもの健やかな成長を見守ってこられました。その当時の思い出や大変だったことなど話していただき、地域の大人が子供とどのように関わればよいか大変勉強になりました。最後には、健全協の方とPTA 聯合会の会長がステージに上がり、「ココロねっこ運動」誓いのことばを述べられました。未来の大村を担う子どもたちの健全育成のために、大人が見本となるように心がけていければと思います。



### 「ココロねっこ運動」誓いの言葉

- ・あいさつ・声かけ運動を推進します。
- ・子どもたちの早寝・早起き・朝ご飯を推進します
- ・子どもや家庭を温かく見守り相談に乗ります。
- ・子どもを育てる楽しい地域づくりに努めます。
- ・子どもの手本となる大人づくりを目指します。

## 立入調査

毎年7月・11月は「子供・若者育成支援推進強調月間」となっており、少年センターでは、立入調査を実施しております。今回は、コンビニエンスストアやカラオケボックス、ゲームセンターなど66店舗にお邪魔し、店内の様子を見せていただいたり、日頃の子供たちの様子について話を伺ったりしました。子どもたちの目に触れるとよくないと思われるものには、商品の配置を工夫するようにお願いすることや危険性の高い銃などが適切に販売されているか等の確認をしています。

また、お店の方から次のようことが確認できました。

### 店舗でのマナー

お店の中やゲームセンター内で走り回ったり、買った商品のごみを店内で捨てたりする小学生が目立つということ。

ご家庭でも、お子様がどのような店で買い物をしたり、どこで遊んだりしているか話題にいただき店舗でのマナーや遊ぶ時のルール等について話をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

## ホームページ

大村市のホームページに健全協での取り組みの様子などを載せています。ぜひ、一度ホームページをご覧ください。うれしいです。

## ＜連載コラム＞

「乳児はしっかり肌を離すな」「幼児は肌を離せ、手を離すな」「少年は手を離せ、目を離すな」「青年は目を離せ、心を離すな」という目から鱗の子育て四訓というある教育者のことばを目にしたことがあります。

子ども支援の現場に関わっていると、特に思春期を迎える時期の子どもたちと接する難しさを感じる場面が多くあります。

思春期の時期は、8歳頃から18歳ぐらいまでの時期に相当します。実際に思春期の特徴が強くなるのは、小学校高学年から中学生と言われています。

＜小学校高学年＞ 物事をある程度具体的に認識できるようになります。自分のことも客観的に捉えられるようになりますが、発達の個人差も顕著になります。体も大きく成長し、自己肯定感を持ち始める一方で、劣等感を抱きやすくなる時期です。

＜中学生＞ 親や友達と異なる自分独自の内面の世界があることに気付き始めるとともに、自意識と客観的事実との違いに悩み、さまざまな葛藤の中で、自らの生き方を模索し始める時期です。

＜高校生＞ 親の保護の下から、社会へ参画し、貢献する、自立した大人となるための最終的な移行時期です。思春期の混乱から脱しつつ、大人の社会を展望するようになり、大人の社会でどのように生きるかという課題に対して、真剣に模索する時期です。

複雑で繊細な葛藤を抱える思春期の子どもを支えることは、大人にとっても難しいことです。発達段階や個々で大きく違いますが、関わり方として、例えば・・・

- 思春期や反抗は、子どもが成長している証であり、大切なステップ。この先、親離れをして独り立ちをしていくために必要なことととらえる。
- 新しい人との出会いや体験、さまざまな考えや価値観に触れることで、新たな自己理解や多面的な考え方に気付くことにつながることを認識しておく。
- 子どもが感情に振り回されていたら、クールダウンの時間をつくり、落ち着いたところで話を聴くようにする。まずは、子どもが話したいことに耳を傾ける。「聴く」ことが、話し合い・相互理解への一歩につながっていく。
- 寄り添うことを意識する。一方的な干渉や説教は、大人への反発を強める。助言や援助は、子どもの気持ちに合わせて行い、実行するかどうかは子どもに決めさせるようにする。
- 思春期の時期だからといって放任しない。悪いことは悪い、ダメなことはダメと伝えるようにする。自分のことを見てくれているときっと伝わるはず。

思春期とは、まさに「自分探しの旅」「大人への通り道」「いわば『通過儀礼』」。心も身体も成長しているからこそ、“誰にでも起こるもの”として、周りの大人は見守り、時に寄り添い、声をかけていこうではありませんか。　　＜ひびK・I＞

青少年に関する相談は少年センター（月～金 8:30～17:15）へ

☆ 相談電話(ヤングテレフォン)0957-49-5263

☆ Eメール相談 : [kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp](mailto:kiitekudasai@city.omura.nagasaki.jp)